

令和4年度阿倍野区区政会議 福祉・健康づくり部会における
令和5年度施策・方針に向けた主な意見等

令和5年度に向けていただきたい意見

現在、地域福祉活動に関わっていない区民の「気にかける」意識を高め、行動につなげていただくためには、どのような取組を進めていけばよいのか、ご意見をいただきたい。

第1回部会（令和4年8月2日開催）における委員からのご意見等

○地域福祉の推進について

- 区の事業、社会福祉協議会、自治組織、各団体の活動内容や、事業推進のための条件、課題などを、さらに委員間で共有できるとよいと思う。
さまざまな地域の生活と支援の現状と問題点について、再度全体的に整理しておくことが必要であり、専門職員、地域福祉活動の立場で感じている問題点、方法などについて報告・議論する機会も増やすとよいのではないかと。
- 新型コロナウイルス感染拡大が続いているが、その中で経験してきたこと、地域のつながりの回復と新しいつながりの工夫、経済的困難や就労の問題など、どのように地域福祉計画に反映するか、今後検討を進める必要を感じる。

○地域福祉活動の促進について

- 地域福祉活動に関わっていない区民が「気にかける」意識を高め、行動につながるためには、地域の問題を自分の問題と感じ、つながりを実感できるような身近なテーマを取り上げて、プライバシーも守りながら隣人とのつながりを強めるための小さな集まりや活動を地域ごとで企画できるとよいと思う。
- 防災はもちろん、環境保護、緑化、花づくり、食生活など、みんなで地域の中でできる身近なことに取り組み、楽しみ、心がやすらぐようなことを発見できる仕組みができればと思う。
- 戦略 3-1 について、令和3年度区民モニターアンケート実績で現状を踏まえての分析はしているのか、数値の結果のみで単純に判断してよいのか。また、回答者の年齢構成も検討してみる必要があるのではないかと。
- 地域福祉活動に参加したことのある区民の割合が、20.8%にとどまっていることは、高齢者人口割合から考えるとPR不足が否めない。高齢者の中には、少しぐらいは地域貢献したいと思っている人もいると思うので、いろんなアイデアを組み合わせれば実現可能な取組と実績が残せると考える。
- 地域福祉に参加する機会がない、一人では参加しにくいなどの理由で参加しない。大学生や学校を通してボランティア活動の周知を進めてほしい。また、手伝ってもらえる大学生に直接を声かけられる仕組みがあればいいと思う。

○当事者の参画について

- 若い認知症の人たちの居場所がないと言われているが、阿倍野区独自で、認知症当事者の人たちの声を聞くところから始めて、どんな活動を望んでいるのか、どんな場所が要るのか、その当事者の人たちは何がしたいのか、経済的にも補助をしてボランティア活動の援助をしながらモデル的な活動ができればいいと思う。
- 認知症の当事者の方が講師として講義すると認知症観が伝わる。認知症になっても、いきいきと生きていける、活動していける場が求められている、当事者の方々を講師として招き、講義してもらいたい。
- 当事者参加、当事者主権がどのように進められているか、区の状況と、全国、大阪での先進的な事例を把握することが必要であり、区でも講座・講演等でもっと語っていただき、皆で学ぶ機会を増やしてほしい。また、当事者の範囲は広く、発達障がいや心の病などさまざまな見えにくい立場の方がたくさんおられるので、そうした理解への配慮も必要だと思う。

○福祉教育の推進について

- 大阪市内の町会員構成比率（現況調査結果）が、阿倍野区は6割とまだ高いほうだが、各区共に減少傾向である。
様々な要因が重なって、目標の「みんなで支えあう地域づくり」のベースが崩れつつある。児童生徒に地域とのかかわりを広げる教育分野への戦略が求められており、各町会で行っている「児童生徒とのかかわり」を行政として取りまとめて、引き継いで、さらに拡大していくにはどうするのかを話し合う時だと思う。
- 福祉教育のプログラムはこれまでの取組をふまえて、連携や議論の場が広がるようにと期待している。また、地域でのさまざまなサポーター養成のプログラムの拡充もニーズに沿って進むようにと思っている。

○その他

- 災害時用の緊急放送設備が公園に整備されているが、これを使えば管理者等が不要の大阪版公園ラジオ体操が実現する。高齢者のフレイル防止にも、また地域の人々のつながりにも役立つと思う。

令和5年度に向けていただきたい意見

地域ぐるみで運動の習慣化に対する意識を高めるために、どのような取組を進めていけばよいのか、ご意見をいただきたい。

第1回部会（令和4年8月2日開催）における委員からのご意見等

○地域ぐるみの健康づくりについて

- 地域ぐるみで運動を習慣化する取組として、ごみを拾いながらジョギングをする「プロギング」が面白いのではないかと思う。まちなかや公園をきれいにしながら子どもから高齢者まで楽しくジョギングしながらできるということで、SDGsとしての盛り上がりもあるようだ。阿倍野区でもできないか。
- ラジオ体操は、小さいお子さんを連れた若い父母が参加している。地域の取組みに対する若い世代の認知度が上がり、参加者が増えてきたのではないかと思う。また、「つながりフェスタ」の開催時には、昔とは違い父親の参加が増えたと実感していた。こうした取組に、意義を感じている。